

かわごえ都市景観表彰

AWARD FOR KAWAGOE LANDSCAPE DESIGN

川越市都市景観審議会景観表彰審査部会委員

- 石井 成人 / 川越商工会議所 建設業部会長
- 神山 藍 / 東洋大学理工学部都市環境デザイン学科准教授
- 糸原 恒久 / 公益社団法人小江戸川越観光協会会長
- 倉田 直道 / 工学院大学名誉教授
- 篠崎 幸恵 / 東京家政大学家政学部造形表現学科講師
- 日色 真帆 / 東洋大学理工学部建築学科教授
- 藤村 龍至 / 東京藝術大学美術学部建築科准教授 ※敬称略、50音順

景観表彰審査部会委員総評 部会長 倉田 直道

今回の表彰では、新築、再建、復原、修理、リノベーションという、カテゴリー毎の代表作としてふさわしい5作品が都市景観デザイン賞に選ばれました。これは、選考された受賞作品の全てが都市景観デザイン賞であったことを意味し、応募作品の層が全体的に厚く、ポイント賞という枠に納まるものがないほど、完成度の高い作品が多かったためです。

特に、リノベーションという新感覚のカテゴリーについては、意匠的な創造性を評価することは難しいながらも、取組の経緯や事業内容を含めた存在そのものが、都市の再生を促すデザイン性があるとして評価されました。

受賞作品への全体的な評価軸としては、路地や角地、通りの連続性など、立地的特性を上手に作品内に取り込んだ「まち使い」に長けていたことが挙げられます。言い換えるならば、今、この場所にあるからこそ意味があるという視点を持った作品であると言えます。

平成の時代と共に歩んできた都市景観表彰も15回目という節目を迎えました。今後も、受賞作品の存在が町の中で意味のあるものとして成長していく過程を楽しみつつ、見届けたいと思います。

平成30年度は下記の通りに行いました

募集要項

- 対象事例 川越市内に現存する建築物などで、おおむね3年以内につくられたもの。ただし、川越市施工のものは除きます。
- ①伝統的な町並み景観の保全・調和を図っているもの
 - ②河川・公園などの自然の景観要素とうまく調和しているもの
 - ③将来のまちの景観をリードしていくような積極的提案が盛り込まれたもの
 - ④住民の創意工夫または活動によって造られたもの
 - ⑤都市景観に配慮された植栽・モニュメント・サイン・夜間照明・足もと空間など
 - ⑥その他、都市景観の形成に貢献していると思われるもの

募集期間 平成30年7月2日(月)～8月1日(水) (必着)

推薦資格 どなたでも (自薦・他薦は問いません。)

推薦方法 都市景観課(本庁舎5階)、各市民センターで配布している応募用紙に必要事項を記入し、都市景観課へ持参、郵送、FAX、または、川越市ホームページの応募フォームから。

まちかど審査会

まちかど審査会は、市民の方々の意見を参考に取り入れるとともに、まちの景観について広く知っていただく目的で実施しています。
平成30年度は8月6日～17日に、市役所本庁舎、大東市民センター、高階市民センターにて行い、293人の方々が投票しました。

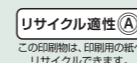


受賞作品の良きライバルとして



- A 幸町1 邸店舗
- B 粟生田家店舗
- C 栄光ビル
- D ハンドメイドペーカー ニコリ
- E 八幡通り店舗の植栽
- F スターバックスコーヒー 川越鐘つき通り店
- G 宇田川や
- H サンドイッチパーラー楽楽
- I 麻利元町長屋
- J 育児育母支援施設「パティマタニティハウス」
- K ハウスバーナーゼ/ア株式会社川越工場 試験研究棟
- L 大工が建てる昔ながらの家
- M 土麦(つむぎ)
- N 椿の蔵
- O 月吉町の家

主催：川越市
問い合わせ先：川越市都市計画部都市景観課 / TEL.049-224-5961 (直通)



かわごえ都市景観表彰

AWARD FOR KAWAGOE LANDSCAPE DESIGN



暮らしのまわりの素敵な景観

人は居心地のよい都市を意識し求めるもの。まちの情緒や個性が印象的に映るとき... まちの気配に文化を感じるとき... わたしたちの感性を満たしてくれるそんなすてきな景観を求めていきたい



川越市
平成30年度

かわごえ都市景観表彰

AWARD FOR KAWAGOE LANDSCAPE DESIGN



都市景観デザイン賞

空間を構成する素材すべてにバランスがとれ、新しい試みや工夫が盛り込まれ、景観づくりに対する模範となるものに与えられます。

Design prize

かわごえ都市景観表彰は、歴史と伝統の香る川越の景観に調和し、今後の都市景観を形成していくうえで、その先駆又は象徴と考えられる建築物等に対して表彰するものです。平成2年度から隔年で開催され、今年度で15回目を迎えました。

これまでの川越を形づくってきた風景や自然に対して、どういった景観要素が加えられ、新たな風景を生みだしていくのか。歴史ある町並みに積極的に調和し、新たな都市構築の中でシンボルあるいはリーダーとなり、ときには斬新な試みや提案があらわれます。年々変わりゆく都市にあって、今後の川越らしさを積み重ねていくモデルとなる素材を顕彰することにより、まちづくりの糧にしたいと思います。



都市景観表彰記念トロフィー A TROPHY

作者：関根伸夫
テーマ：「風景の指輪」
イメージ：自分がかはめている指輪を抜いて、これとは想う風景の前に置いて下さい。すると風景はますます輝いて美しく見え、指輪が景観を引き締めているのが分かります。



都市景観ポイント賞

景観をつくりだす様々な具象的、抽象的要素（ポイント）についての模範となるものに与えられます。

※該当なし

旧大工町長屋

連雀町27-1

動的な景観デザインの試み



長年空き店舗となっていた木造2階建ての三連長屋の内、交差点側の2棟がリノベーションにより、飲食店、コーヒースタンド等へ再生されました。

昭和の懐かしい外観はそのままですが、中に新しい町のアクティビティを持ち込むことによって再生したことが新鮮で、改修途上の表現としてのデザインが評価されました。一気に終点を目指すのではなく、中の活動も含めて、身の丈の再投資を繰り返していく成長過程を楽しむ景観となっています。特に、夜には中の活動が通りに漏れ見え、ひっそりと佇んでいた交差点の風景を一変させています。

建築主：株式会社80%
設計・施工：株式会社coto 設計協力：maao
DIY：株式会社80%+お手伝いされた皆さま

稲葉屋本舗+吉仁製菓

元町2-7-6

ここから菓子屋横丁



平成27年6月に発生した菓子屋横丁の火災で全焼した6棟の内、東側3棟が、菓子屋横丁の入口角に建つ吉仁製菓と、それを囲むようにL字型に建つ稲葉屋本舗の2店舗に再建されました。火災により途切れた横丁の町並みと賑わいを取り戻すだけでなく、看板やベンチ、中庭を設け、人を招き入れるしつらえが通りに安心感を与えています。

火災の教訓を活かし、通り抜けの機能や防火性能を重視しながらも、賑わいの創出や景観に配慮した工夫が随所に見られ、まるで以前からそこにあったかのような親しみを感じさせます。地域と共に再建に取り組んだ経緯も含め、復興のシンボルとして語り継がれるべき建物です。

建築主：長井和男・吉岡勇
設計：守山登建築研究所
施工：久保建築・山善建設株式会社

龜屋栄泉 南亀楼

幸町5-30

立地を活かす確かな演出



蔵造りの通りから長喜院に向かう路地の奥に新築された店舗併用住宅です。脇役になりがちな路地の魅力を理解し、個性を際立たせることに成功した建物です。

路地に沿って設けた長い軒下空間や、分棟化した屋根の配置が、長喜院門前通り線のスケール感にうまくマッチし、歩行者や店舗を利用するお客さんに丁度良い心地よさを与えています。路地向かいの店舗の中庭とも呼応し、広場のような開放感のある路地として新しい魅力が創出されました。

建築主：中島 文昭
設計：守山登建築研究所
施工：飯田建築有限公司

氷川神社 旭舎文庫

志多町1-1

時代と共に、地域と共に



「かどみせ」「さかうえ」の愛称で地域の子供達に愛された駄菓子屋が、「地域に開かれた読書館」としての機能を備えて生まれかわりました。

当初、菓子商として建てられたこの塗屋は、明治14年以前から氷川神社へと向かう通りの角に位置し、時代の移り変わりを見守ってきました。下屋下の歩行空間を確保するため、建具を内側にセットバックさせる工夫を施しながらも、それを感じさせない統一感のある色使いと丁寧なつくりが、昔を知る人にも変わらぬ愛着をもたらしめています。真面目に復原修理に取り組んだ、関係者の思いが感じられる作品です。

建築主：宗教法人氷川神社
設計：守山登建築研究所
施工：川木建設株式会社

小島家店蔵

連雀町13-4

町住まいへの帰属



空き店舗となっていた店蔵が、新たな所有者を得て保存再生されました。

明治34年に建築された、大正浪漫夢通りの中央に建つこの店蔵は、高度経済成長期に当時流行りの店舗形態に改変され、通りを歩く人も歴史的建築物であることに気が付かないほどでしたが、外壁や建具、下屋までもが見事に復原されており、その違いに驚かされます。

当時の姿を取り戻したことで、分断されていた町並みの連続性が回復し、通りの歴史性が再生されるとともに、町に住まう楽しみを再認識させてくれる建物です。

建築主：小島 正巳
設計：共和木材建築設計室
設計協力：水谷意匠一級建築士事務所
施工：株式会社大滝建設